

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷		
所在地	島根県松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	平成24年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/JigvosyoBasicPub.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成24年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設で作った新鮮な野菜や、獲れたての魚を使って、栄養士が献立を考え、バランスの良い食事を提供しています。
 中海沿いののどかな環境で、一人ひとりの方とのコミュニケーションを大切に、それぞれの生活スタイルに合わせ、ゆったりと過ごしています。
 職員も、笑顔心がけ、利用者の皆様にも笑顔になってもらえるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して6年目になる大根島にある本館、新館合わせて4ユニットのグループホームである。最近ホームの前に道路が整備され、車の交通量を考慮して、敷地内でも、安心して気軽にお茶を飲むスペースを提供をしている。近隣の住民より、いつも新鮮な魚や野菜が届けられている。職員も年間の行事を企画し、職員一同で積極的に取り組んでいる。昨年の豪雪の経験が活かされて、備蓄や地域との協力体制も築かれている。年間を通して、安心して生活できる環境になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷		
所在地	島根県松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	平成24年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/JigvosyoBasicPub.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成24年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設で作った新鮮な野菜や、獲れたての魚を使って、栄養士が献立を考え、バランスの良い食事を提供しています。
 中海沿いののどかな環境で、一人ひとりの方とのコミュニケーションを大切に、それぞれの生活スタイルに合わせ、ゆったりと過ごしています。
 職員も、笑顔心がけ、利用者の皆様にも笑顔になってもらえるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大根島にホームがあり玄関から中海が望まれる。行事など新館との交流もある。利用者の中には食事の手伝いなどをされ生き生きとした姿が見られた。重度化が進み入浴介助が大変だが職員が状態をよく把握され二人介助で行っている。災害対策は暖房機、調理器具、調理用品、食料の備蓄など整備された。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで楽しい、尊厳ある生活を保障します。その人らしい、当たり前前の生活を保障します。」との事業所の理念を、毎日の朝礼時に理念を唱和して、職員全員が実践に向けて取り組んでいる。	理念は、毎日朝礼時に唱和され、職員会議で話し合い、意識づけを行っている。地域密着型の意義を踏まえどんな施設を目指していくか、職員全員で考え24年度から新しい理念を実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所とは、離れているが、地域の人から取れた魚、収穫した野菜等を頂き、食材として使用している。また、保育園児の来苑、中学生の職場体験、民生委員の推進会議への参加をして頂いている。	地域より魚や野菜を頂き、食材として使用している。地域の方が菜園の草取りや収穫を手伝ってくださる。中学生の職場体験として交流や、保育園児が年2回ほど来所され遊戯やふれあう機会がある。今年の冬はホームの駐車場などを地域の方が雪かきをしてくださった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られることがあり、傾聴し助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、外部評価の報告を行った。 消防法の改正についての説明や避難訓練の取り組み状況を報告した。	はは2ヶ月～3月に1回開催されている。山席家族からの提案や要望を頂き、サービス向上に活かしている。自治会から意見を頂いた夜間避難訓練については、新館と協力体制を整え24年度訓練を充実して行く予定である。外出支援を増やして欲しい希望あり外出を多く行った。災害時の地域連携も話し合いが行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の入所にも対応し、生活福祉課へも出向き、相談を行った。	ホームとして受け入れの状況は市に提出されおり、相談も随時されている。雪の被害などで、ライフラインの要望や地域との関係性について、行政に相談を行い、協力関係を密接にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放し、身体拘束を行わないようなケアをしている。	日中玄関の鍵は掛けていない。言葉の拘束についても、管理者が気づいた時や職員会で、声のかけ方について話し合いをしている。外に出たい利用者に対応できないときは他利用者との状況を考えながら対応している。転倒防止のためベッド足元にマット対応をしている。	家族にマット使用を口頭で話されているが計画作成者はサービス担当者会議等で家族、利用者に説明され必要書類にきちんと手続きをする必要があるのではないのでしょうか。マット使用の記録はあったが整備が必要と感じられた。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加して学び、事業所内でも虐待防止に努めている。マニュアルを作成している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加している。権利擁護事業や、成年後見制度の活用の支援を行えるよう、知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時、本人・家族に十分説明し、納得していただいてから手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情相談窓口について説明している。玄関に意見箱を設置している。日々の生活の中で利用者からの意見や困りごとがあれば、耳を傾けるようにしている。	通院が無理な利用者には家族と話し合い、往診対応になる等、アンケートより食事献立表が欲しいとの要望に管理者は食事献立表は難しいので行事の献立表を月1回の郵便物送付のとき送付することを考慮中とのこと。	事前の献立が難しいと思いますが、食事をしたメニューは日々の記録で確認できると考えます。その記録を、「今月食したメニュー」として、家族に報告する等の配慮が欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族から直接意見等があれば、話し合い、改善・支援に反映させている。意見箱を設置している。	職員会議では、地域の行事の参加を増やしたい事や介護方法やいろいろな提案、改善などを話し合っている。職員は管理者に意見や相談ができ、言いやすい雰囲気である事が伺えた。	職員会議で介護方法の共有を図り実践に活かされたい。いろいろな委員会があるが、職員リーダーを決めて、役割分担をしっかりと、環境整備が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の能力や経験を考慮し、業務内容等配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、内部研修を行っている。認知症の研修等、外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、交流をしている。研修で、職員も他施設での実習をする機会があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用までに面接を行い、本人が困っていること、不安なこと等を良く聴き、安心してご利用できるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用までに面接を行い、家族が困っていること、不安なこと等を良く聴き、安心してご利用できるよう努力している。都度、電話での対応もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人・家族の意見・意向を聞き当事業所で支援できるか検討している。また他のサービスも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の師として敬って接している。残存機能を活かす為、食事作りや配膳、洗濯たたみなど、出来ることを一緒にいただき、役割を持ってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の悩み・相談時等一緒に考え支えあえるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は家族だけでなく友人も来られている。	入所前の友人が面会に来られたり、以前利用していた美容院に出かけなじみの関係が続いている。家に帰りたいと訴えのある方には、職員と一緒に出かけたり、小学校の運動会やぼたん祭りに出かけ馴染みの人や場所との関係作りをしている。家族が墓参りや外食の支援も継続的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・レクレーション等共に共有できる時間を大切にしている。職員が調整役をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所となった方へは、退院後の相談も受けている。再度入所申込をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時本人の思い・家族の意向等反映している。日々の会話の中で本人のしたいこと、やりたいことを聞くように努め、対応するようにしている。	入所時のアセスメント、面会時に家族との会話の中から聞き取りを行っている。職員が日常の会話の中から希望、意向の把握も行っている。家族の意向をケアプランに入れたり、表情を観察して、利用者の望む事を話し合い、職員で共有していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に情報収集している。入居後も、ご本人との会話の中で、馴染みのあることや、生活歴を伺うことがある。ご家族の面会時にも、積極的に話をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催して、計画書を作成し、家族、職員が共有している。状況によって見直しも行っている。	計画作成者は家族と話し合い本人・家族の意向を把握し、ケアプラン作成時に反映されている。モニタリングを実施し6ヶ月で評価、見直しが行われていた。変化があったときは随時変更が行われていた。	記録はされているが、ケアプランと関連した介護経過記録の整備が必要と感じられる。また、見直しや評価時に継続ケアプラン作成に活かされることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、申し送り等で情報を共有し、カンファレンス、モニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・外出支援等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の訪問や、保育園児との交流、中学生の職場実習などの受け入れもを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診依頼・通院介助を行っている。	皮膚科、眼科など家族が受診同行されるときは状況の照会をかかりつけ医に持参出来るよう記録を渡され、適切な医療が行われるよう支援している。往診希望をされる利用者には本人及び家族等の希望により変更されている。協力医とも連携が保たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力委員の看護師の訪問時や受診時、電話等でも相談・助言をいただき、連携をとりながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、随時訪問したり、連絡を取り、状況の把握に努めている。退院時はカンファレンスに出向いたり、サマリーをいただき、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴い、家族へ説明し、話し合いを行っている。かかりつけ医へも随時報告し連携を図っている。	嚥下状態が悪く、目が不自由な利用者もおられ、時間をかけて食事の支援がなされていた。看取りの指針はあるが、マニュアルは無い。隣接の新館に看護師がいる事から、主治医との協力体制も今後の課題である。	入所前に見取りの指針をきちんと説明されたい。管理者と計画作成者はマニュアルを作成されたい。職員に重度化や終末期に向けたケアの方法、対応の研修を行い委員会の役割を充実される事を希望します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成している。年1回、救急蘇生法の研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、避難訓練等を行っている。備蓄を行い、災害時に備えている。	消防訓練は今年は1回実施された。一昨年の大雪の経験から調理器具、石油ストーブ、灯油、紙コップ、紙皿や食料も3日間くらい備蓄している。職員がホームの近隣に住んでいるため職員緊急連絡網で連絡し早く駆けつけることができるよう配備されている。	緊急時や災害時、近隣の住民や民生委員などの協力体制をつくり、連絡網に入れられると良いでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に添って尊厳を持った声かけに努めている。排泄・入浴等さりげない言葉かけで対応している。	言葉掛けは丁寧だった。大きな声で言わないように配慮がなされ、耳が不自由な方には、身振りで誘導したりしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをもち、希望を聞くようにしている。入浴・衣類の選択等自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、個性を尊重し、その人に合った暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店より着ていただき、カット、カラー、パーマ等希望でしていただいている。お化粧品やマニキュアをして喜んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、食材を切ったり、盛り付け等手伝ってもらい、昼食時は、職員も一緒に食事をしている。	職員と共に食材を切ったり味付け、盛り付けを手伝ってもらう支援が行われていた。介助が必要な利用者には声かけや嚥下に注意した食事介助が行われていた。バイキング形式にして、視覚的に楽しめるよう配慮もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を配慮して栄養のバランスの取れた食事を提供している。食事量、水分量をチェック表に記載し水分摂取量の少ない方には、好みのものやお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいの声かけを行い、介助の必要な方は職員が義歯の洗浄を行っている。自立の方も口腔内のチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、トイレ誘導を適宜行って、失敗を減らすよう努めている。	排泄チェック表で排泄のパターンを把握、トイレ誘導を実施し、リハパン内のパッド使用が無くなった方や入院からホーム入所時オムツ対応の方がリハパン使用となる等、自立へ向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、便秘時には水分摂取や運動を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調に応じて、対応している。また、本人の希望に添って、入浴できるようにしている。	各ユニットで午前、午後に分けて入浴を行っている。希望があれば曜日、時間の対応をされている。週2回入浴支援がなされている。身体的に重度の入居者には、二人介助で慎重対応し、入浴を支援していた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠られるよう、ぬいぐるみを傍においたり、足元に湯たんぽを置いている。寂しさから寝付けない方は、傍に付いて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量については、医師や薬剤師の指示を聞いている。また処方箋で理解している。服薬の際の状態の変化はバイタルチェック等を行い観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクを行い、カラオケ・塗り絵、体操等楽しんだり、食事の準備、盛り付け、洗濯物たたみ等、出来ることをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気の日等は戸外に散歩に行ったり、日向ぼっこをしている。 家族や職員と個別に外出している。 ドライブや花見など、数人ずつで出かけている。	月に一度は、ドライブ等の外出支援に努めている。敷地内に、テーブルや椅子を置き、気軽にお茶を飲める場所を提供されていた。家族との外食が楽しめるように支援もされている。近隣のスーパーへの買い物にも意向を聞き、支援がなされ散る。	家族にも便りで、外出の予定を知らせて、一緒に出かける機会をつくることも期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、職員が付き添い買物にも出かけることがある。お小遣いを持ってもらえるかたもいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば職員が取り次ぎ電話で話をされる。また家族の方から連絡があった場合にも取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等にお花を生けたり季節の飾り等を取り入れている。	玄関には近所の方が持ってこられた季節の花が生けてあった。ホールは日当たりが良いので利用者がよく集う場となっている。ホールには加湿器も設置されており、利用者が過ごし易い様職員が温度の管理をおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者の方同士で会話がはずみ、食堂やホールのソファでくつろいでおられる。 配置に気をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテーブル等馴染みのものを持ち込んだり、畳いコタツを置きくつろげる居場所を作ったりしている。	家族の写真、本人の使い慣れた筆筒、テーブル、こたつなどが持ち込まれ置かれていた。ホームで作られた作品も飾ってあった。畳がよい方は畳を敷き暮らしやすい支援が行われていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下等に手すりを設置している為に、ある程度自立した方は一人でも入浴や歩行ができるようになっている。建物内はバリアフリーになっており、安全にご利用者が行動できるようになっている。		